



2022年5月17日 神戸国際大学 キリスト教センター通信 第56号

### 「プーチンを許せますか？」

理事長 バジル 八代 智

皆さんは「ピロシキーズ」という「ロシア生まれで関西育ちの東京在住ユーチューバー」をご存知ですか？ロシア人男女のコンビでとても面白いトークを毎回アップしてくださり、私は何年も前から彼らの大ファンでした。

そんな彼らが2.24以降、めっきりふさぎ込んでしまいました。ロシア人の自分らが今お笑い系の動画をアップする気になてなれないと、ロシア人であることの自責の念やウクライナ人へのお詫びの気持ち、そして今自分たちに何ができるのか、何をしなければならないかといったことを、現在は暗い面持ちで語り続けています。

そんな彼らに対して多くの日本人ファンが「ロシア人みんなが悪いんじゃない。プーチンが起こした戦争だということをみんな理解しているよ」とか、「ロシア人だからとそんなに自分たちを責めないでね。これからも面白い動画をどんどん発信してください！」と、優しいコメントを綴っています。

とはいえ今なおロシアによる軍事侵攻は続いているわけで、毎朝毎晩ウクライナの惨状をテレビで目の当たりにしますと、キリスト教の牧師になって30年以上のこの私でもプーチンに対する怒りが込み上げてきます。「汝の敵を愛せよ」(マタイ 5:44)との主イエスのご命令は知ってはいても、ウクライナの一般市民に対して虐殺行為を続けているロシア兵やそれを良しとするプーチンをとても許すことはできません。

否、戦死したロシア兵の多くがまだまだ若い20代の新兵と言われておりますので、彼らもまた犠牲者なのかも知れません。両国共にこれほど多くの戦死者や犠牲者を出した不毛な戦争の責任者であるプーチンを、それでも愛の神はお赦しになるのでしょうか？

私たち人間にとって十字架にかけられて人々の罪の贖いとなられた主イエスの御心を知ることは容易ではありませんが、西方教会と東方教会だけでなく、すべてのキリスト者の信仰が今問われているように思います。

インド独立の指導者として「非暴力不服従運動」を貫いたマハトマ・ガンジーは有名ですが、彼にまつわるこんな逸話がございます。ある日彼のもとに、一人のヒンドゥー教徒の男がやって来て言いました。「先生、私の息子はイスラム教徒に殺されました。息子の復讐のためにイスラム教徒の息子を殺したのですが、私の悲しみは全く癒されません…」。

それを聞いたガンジーは静かに言いました。「あなたが救われる方法が一つある。イスラム教の両親をヒンドゥー教徒に殺された孤児をあなたの子供として育てなさい。それもヒンドゥー教徒ではなくイスラム教徒として育てなさい…」

一日も早く世界中の人々に、主の平和(PAX DOMINI)が訪れますように。

ひとくちメモ — 西と東 聖と正 —

みなさんは「ハリストス」とか「ニコライ」と聞いて、何のことだかわかりますか。

仏教にも多くの宗派があるように、キリスト教にも聖書の解釈や式典の特徴、地域などによっていくつもの教派に分けられます。11世紀頃にカトリックの西方教会とギリシャ正教を中心とする東方教会に分かれ、16世紀頃には宗教改革によって神戸国際大学が拠るところの聖公会やルーテル派のプロテスタント教会が分かれ、東西の教会として現在に至ります。

それぞれの地域で、その時代の人びとを受け容れてきたキリスト教会も、その起源はひとつです。本来はどの教会も他の宗教や他の教派を否定したり排除したりするものではありません。

それにしても、対立や争いを繰り返している地球の子供たちを父なる神さまはどう思っていることでしょうか。



## ウクライナのための祈り

正義と平和の神よ、  
わたしたちは今日、ウクライナの人々のために祈ります。  
またわたしたちは平和のために、そして武器が置かれますよう祈ります。  
明日を恐れるすべての人々に、  
あなたの慰めの霊が寄り添ってくださいますように。  
平和や戦争を支配する力を持つ人々が、知恵と見識と思いやりによって、  
み旨に適う決断へと導かれますように。  
そして何よりも、危険にさらされ、恐怖の中にいるあなたの大切な子ども  
たちのために、  
あなたがウクライナの人々を抱き守ってくださいますように。  
平和の君、主イエス・キリストによってお願いいたします。  
アーメン。

ジャスティン・ウェルビー大主教  
スティーブン・コットレル大主教

